



能登半島地震

姉妹都市に届け 支援の輪



元日を襲った大地震

令和6年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7を記録する地震が起きました。姉妹都市である能登町では最大震度6弱を観測。強い揺れに加え、沿岸部には津波が襲来し、多くの建物が被災したほか、停電や断水も発生し、携帯電話が不通になるなど混乱を極めました。さらに、土砂崩れや陥没などで道路が寸断され、救助や支援を阻む状況も。

被災した住宅も多く、厳しい寒さの中、最大で5千人を超える人が避難所での生活を余儀なくされました。

物資や職員派遣で支援

1月2日の朝8時ごろ、大森^{おほもり}凡世^{かずよ}能登町長から宮原市長に電話がありました。同町の非常に厳しい状況が伝えられ、市長から支援を申し出ると1月4日に支援物資の要請が、その日のうちに飲料水などを送りました。1月7日には人的支援の要請があり、1月10日に市職員3人を派遣。第2班を1月21日に派遣しました。

派遣職員が見た被災地

1月10日に公用車で小林市を出発して宮崎カーフェリーを乗り継ぎ、能登町に着いたのは翌11日の午後5時半頃でした。能登地方に入ってから、倒壊した家やひび割れた道路などを目の当たりにし、被害の大きさを改めて実感。派遣された私たちが、能登町の皆さんの力に少しでもなればと強

く思いました。

能登町での私たちの業務は、住民の皆さんへの情報提供や災害対策本部業務です。

1月21日現在、町内には56カ所の避難所があり、能登町役場の職員は被災者への対応や災害復旧などに昼夜を問わず懸命に取り組んでいます。

しかし、全く人手が足りないため、全国から国、県、市町村の職

員が派遣され、協力して業務にあたっている状況です。

被災者には水や食料などが届けられ、停電も解消されつつありますが、依然として断水は続いている状況です。また、被災地が必要とされる物資は、状況によって変化していることも分かりました。

復旧・復興に少しでも貢献できるように被災地に寄り添ってまいります。



総務課 中田浩彰 主事

広がる支援の輪

おこづかい募金

「能登町のために、できる範囲で協力しよう」と始まった「おこづかい募金」。昨年夏に能登町の中学生と交流した細野中3年の藤田智大さん（写真④）と林優大さん（写真⑤）が提案し、他校の生徒も交流に参加していたことから市内の全小中学校に呼びかけて実施しました。「交流会で他愛のない話をし、すぐ身近にいた友だちが被災し、とても心配。被災地を支える気持ち伝わり、復興への希望になれば」と話していました。



1月10日～18日までに集まった募金は約138万円。市に寄せられた義援金とともに、能登町に送られます



支援物資（経済団体）

1月10日、2回目の支援物資を送りました。

この物資は、JAこばやし、小工商工会議所、すぎ商工会、野尻町商工会、高原町商工会からの提供です。物資を運搬するトラックは、宮崎県トラック協会（牧田信良会長）の協力によるもの。さらに、3回目の発送（1月19日）には小林地区建設業協会からの提供もあるなど、経済界からの支援の輪も広がっています。



能登半島地震が発生してから1カ月。被災地は、これから本格的に雪が降る季節となります。寒さと雪が復旧を阻まないことを願うばかりです。

姉妹都市である能登町とはこれまで、祭りでの出店、中学生や視察の受け入れ、特産品の販売など、笑顔の交流を深めてきました。11月のこばやし秋まつりで、大きなカニの足が目立つカニ汁が印象に残っている方も多いのではないのでしょうか。その時にも、能登町の皆さんが出店し、能登の魅力を実験でPRしていました。

今回の大地震で発生した被害は、あまりに大きなものです。復旧し、復興するまでには長い時間を要することが考えられます。私たちにできることは、被災地の状況とニーズに対応した支援の継続です。

姉妹都市として、今できる支援を重ねていくことで、きっと次の交流につながっていきます。笑顔で再会するために、一日も早い復興を祈って。

ふるさと納税

ふるさと納税で被災自治体支援に寄付できる仕組みを活用し、能登町の支援のため代理寄付の受付を1月3日から実施。1月21日現在で7300万円を超える支援が集まっています。

この取り組みには、本市出身の蛙亭イワクラさんも賛同いただき、寄付していただくとともに、自身のSNSなどで支援の輪の拡大を呼びかけていただいています。

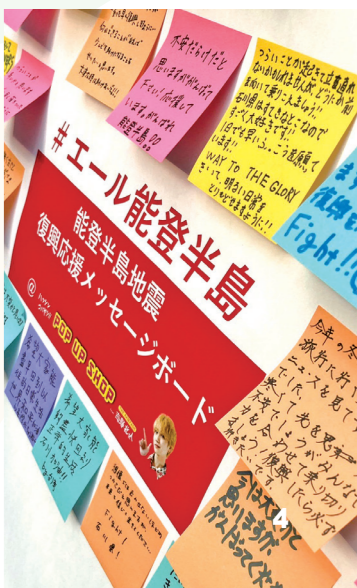


蛙亭イワクラさん（こばやしスペシャルPR大使）

「小林市と姉妹都市の石川県能登町をはじめ、能登半島の皆さまの一日でも早い復興を心から祈って、私も微力ながら自分の出来ることは何か考えて行動しています。寄付活動やSNSでのハッシュタグで支援の輪を広げて行ければと思っています。」

吉野北人さんも応援

1月に大阪府堺市、愛知県名古屋で開催された市の物産展では能登半島地震への復興応援メッセージボードの設置やチャリティグッズの販売も実施。こばやしスペシャルPR大使の吉野北人さん（本市出身）もこうした取り組みをSNSで広めていただいています。



募金箱設置場所

市では被災地の復旧支援のため、次の場所に能登町への指定募金箱と能登半島を含む被災地全体への募金箱を設置しています。

- ◆設置期間 1月4日～当面の間
 - ◆設置場所 市役所本庁舎／須木庁舎／野尻庁舎／西小林出張所／紙屋出張所／中央公民館
- ※西小林出張所は被災地全体への募金箱のみを設置

※1月19日現在の募金額
【能登町指定募金】 1,215,369円
【能登半島地震募金】 369,544円



写真はこれまでの姉妹都市交流の様子

一日も早い復興を

